

大阪湾からの報告

～コアテーマ「豊かな海の再生」について～

令和7年2月28日

国土交通省 近畿地方整備局 港湾空港部
海洋環境・技術課(大阪湾再生推進会議 海域グループ事務局)
課長 宮崎 章博

①大阪湾の特性

- 2箇所の湾口(明石海峡(4km)、紀淡海峡(7km))を持つ閉鎖性の高い海域(海域面積:1,450km²、平均水深28m)
- 後背地には多くの人々が住み、大きな産業集積地を有する集水域を抱えている(集水域面積11,200km²、人口1,715万人)

→ 特に湾奥部で陸域からの負荷量が大きく海水が停滞しやすいため、富栄養化による赤潮の発生や貧酸素水塊が形成されやすく、魚類等の生息に大きな影響を及ぼすなどの問題が発生しやすい



②第三期計画の目標

森・川・里・都市・海のネットワークを通じて、美しく豊かで親しみやすい「魚庭(なにわ)の海」を回復し、多様な主体や世代が参画・連携して「次世代に引き継げる大阪湾」を創出する

～目標の考え方～

近年の大阪湾の栄養塩類の偏在やごみの多さ、人と海との関わり方の状況、社会全体の多様な課題に鑑みると、美しさ・豊かさ・親しみやすさを回復して持続させることで次世代に引き継げる大阪湾を創出するとともに、社会全体の課題にも寄与することが望まれる。これらの目指すべき大阪湾の実現に向けて、多様な主体や世代に取り組みが拡大し、自らが考えて行動することにより、世界に誇りうる大阪湾とすることが望まれる。

③第三期計画の計画期間

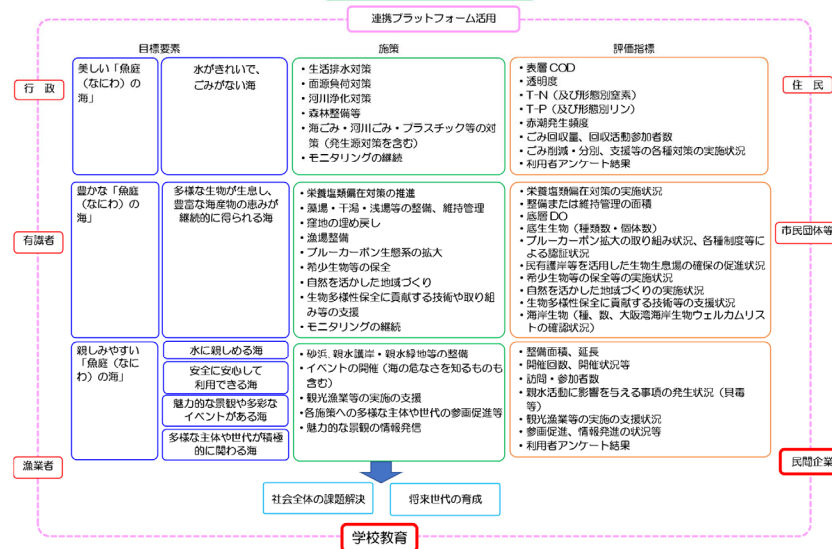
●令和6年度から令和15年度までの10年間

大阪湾再生行動計画(第三期) (令和6年6月策定) P2

④第三期計画の目標達成状況の評価について

- 目標を3つの目標要素に区分し、それぞれの目標要素を達成するための施策、施策の達成状況の評価するための評価指標を設定し、連携プラットフォームを活用して多様な主体・世代が連携して取り組む。

多様な主体や世代の参画・連携



(注)第三期計画では、民間企業及び学校教育との連携をより一層図っていく。

『豊かな「魚庭(なにわ)の海』』の取り組み内容 P3

①栄養塩類偏在対策の推進

- 対策のあり方や進め方の検討及び実施
- 瀬戸内海環境保全特別措置法に基づく栄養塩類の供給に関する計画による取り組みの推進 など

②藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備、維持管理

- 多様な生物が生息・生育できる場の確保、維持管理
- 種苗放流等の実施 など



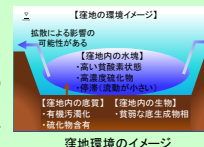
整備した干潟の例



緩傾斜護岸の例

③窪地の埋め戻し

- 多事業で発生する良質な建設発生土を含めた埋め戻しの継続
- 効果的な埋め戻しの検討



窪地環境のイメージ

④漁場整備

- 増殖場(藻場)の整備等による漁獲対象生物の生息・生育場の保全・創出

⑤ブルーカーボン生態系の拡大

- 大阪湾における適用に関する検討
- 多様な主体と連携したブルーカーボン生態系の再生・創出 など

⑥希少生物等の保全

- 今後新たに定着・分布範囲の拡大が期待できる生物の分布状況の把握 など

⑦生物多様性保全に貢献する技術や取り組み等の支援

- 企業や団体等が実施する生物多様性保全の取り組みのPRやサポート など

⑧モニタリングの継続

- 定期的な調査及び取り組みによる効果把握のためのモニタリングの実施
- 多様な主体の参加によるモニタリングの推進
- 大阪湾の環境情報の発信・共有化
- 産民官学の連携強化の推進 など

⑨その他

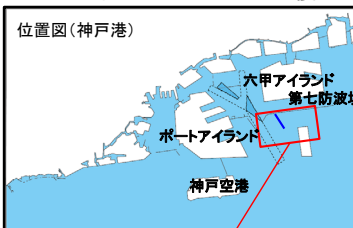
- 里海づくりの推進
- 水産資源の維持・増大に向けた栽培漁業の推進 など

『豊かな「魚庭(なにわ)の海」』の取り組み内容

P4

②藻場、干潟、浅場、緩傾斜護岸等の整備、維持管理

生物豊かな護岸を創出することを目標とし、神戸港六甲アイランド南方に築造される傾斜式護岸において生物共生に配慮した被覆ブロックを設置し、モニタリングを実施。(施工中)

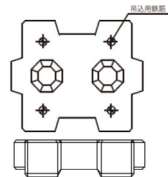


Aタイプ:
稜角部が長い:ワカメ・カジメの着生を期待
空隙が大きい:浮泥の払拭を期待
:魚類の蟄集を期待



Aタイプの一例

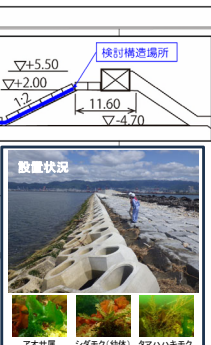
Bタイプ:
比較的フラット:ホンダワラ類等の着生を期待
フラットな部分を活かして付加機能を設置
:多様な生物の共生を期待



①環境活性コンクリート



②アミノ酸配合藻場増殖プレート ③海藻着生基質(セラボラ)架台



『豊かな「魚庭(なにわ)の海」』の取り組み内容

P5

⑤ブルーカーボン生態系の拡大

大阪湾MOBAリンク構想(大阪府と兵庫県の取組)

大阪湾におけるブルーカーボン生態系(藻場・干潟)のミッシングリンクとなっている湾奥部における創出や、湾南部や西部における保全・再生を大阪・関西万博等を契機として、民間企業や地域団体等と連携して加速化することにより、大阪湾沿岸をブルーカーボン生態系の回廊(コリドー)でつなぐ構想

大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス(MOBA)の設立

【大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス(MOBA*)】

構想に賛同する企業、団体、行政機関等が連携して、大阪湾におけるブルーカーボン生態系の保全・再生・創出を推進するため、兵庫県とともに「大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス(MOBA)」を設立 →R7.2月時点 77団体所属

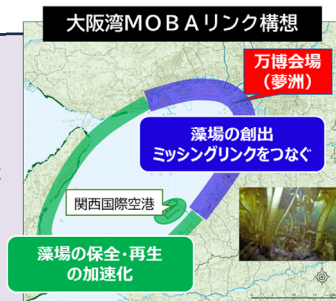
■大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス(MOBA)の取組内容

- 情報発信・普及啓発・理解促進の一元的な展開
- ブルーカーボン生態系の創出等の取組活性化
- 会員同士のマッチングによる「新たな」創出等
- 藻場創出等が生物多様性等へ及ぼす効果把握

* Members of the Osaka bay
Blue carbon ecosystem Alliance

■事務局

大阪府(環境農林水産部環境保全課)と兵庫県(環境部水大気課)



『豊かな「魚庭(なにわ)の海」』の取り組み内容

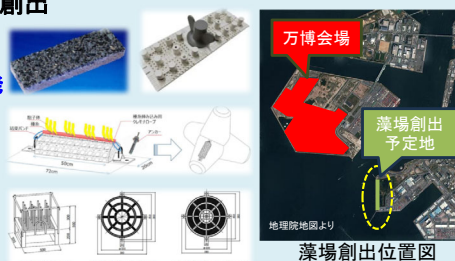
P6

⑤ブルーカーボン生態系の拡大

大阪湾MOBAリンク構想【大阪・関西万博に向けた大阪府の取組例】

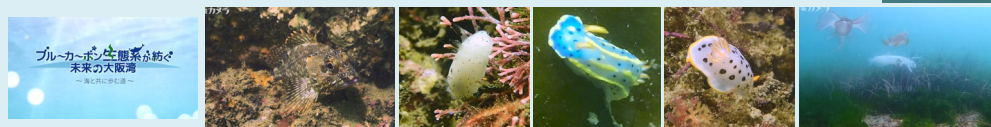
大阪府万博会場周辺海域ブルーカーボン生態系創出

- 万博開催に向けて会場周辺海域にブルーカーボン生態系を創出して大阪湾における取組を国内外に発信。
- 万博会場周辺海域の人工護岸(南港野鳥園護岸)において藻場の創出に取組む民間事業者を公募し、その費用の一部を補助し、万博開催までに約1,000㎡の藻場を創出予定。(4事業者を採択)



大阪湾におけるブルーカーボン生態系の情報発信コンテンツ

- 大阪湾における藻場創出の理解や民間企業の参入の促進のために、情報発信用のプロモーション素材を作成し、大阪・関西万博等の機会を捉えた情報発信を実施。



『豊かな「魚庭(なにわ)の海」』の取り組み内容

P7

⑤ブルーカーボン生態系の拡大

■大阪湾におけるJブルークレジット認定状況(令和7年2月時点)

- 令和2年度の制度創設以来、大阪湾内では8件(うち3件は継続申請)の取組が認証済み(R3d:1件、R4d:4件(うち1件は継続申請)、R5d:1件、R6d:2件(うち2件は継続申請))
- 認証対象吸収量は、167.1 t-CO₂(大阪湾内認証8件の合計)

兵庫運河の藻場・干潟と生きもの生息場づくり

- 対象:アオサ・ジュズモ・アマモ・干潟
- 数量:1.1t-CO₂(令和3年度認証)
2.1t-CO₂(令和4年度継続認証)
1.8t-CO₂(令和6年度継続認証)
- 申請者:兵庫漁業協同組合、兵庫運河を美しくする会、神戸市立浜山小学校、兵庫・水辺ネットワーク、兵庫運河・真珠貝プロジェクト

「神戸の須磨海岸を里海に」Suma豊かな海プロジェクト

- 対象:海藻・アラメ場・カジメ
- 数量:5.5t-CO₂(令和5年度認証)
- 申請者:すまうら水産有限責任事業組合、兵庫県、神戸市、須磨里海の会

神戸空港島緩傾斜護岸におけるブルーカーボン創出活動

- 対象:ガラモ場、ワカメ場
- 数量:9.3t-CO₂(令和4年度認証)
- 申請者:神戸市

関西国際空港 豊かな藻場環境の創出

- 対象:アラメ場・ガラモ場・小型海藻
- 数量:103.2t-CO₂(令和4年度認証)
- 申請者:関西エアポート株式会社

~魚庭の海・阪南の海の再生~「海のゆりかご再生活動」

- 対象:アマモ
- 数量:3.4t-CO₂(令和4年度認証)
40.7t-CO₂(令和6年度継続認証)
- 申請者:阪南市

NPO大阪湾沿岸環境創造研究センター
尾崎漁業協同組合、西島漁業協同組合、下荘漁業協同組合



地理院地図より